１９８９年５月８日第三種郵便物認可 付録　2023年2月15日 不屈　岐阜県版 ＮＯ．391号

岐阜県版
第391号
2023年2月15日

治安維持法国賠同盟
岐阜県本部
〒500-8879
岐阜市徹明通7－13
岐阜県教育会館308号室
Tel　058－252－5366
振替00840-2-88638

私たちの運動の基本
ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

一、治安維持法体制の復活に反対する
二、国は、戦前の治安維持法が、人道に反する悪法である事を認めること
三、国は、治安維持法の犠牲者に、謝罪と賠償をおこなう事

楽しかった岐阜支部 女性部の新春の集い

岐阜支部　大塚　和子

一月一四日(土)岐阜支部女性部は、「新春の集い」を行ないました。コロナ禍のため、食事はなくコーヒーと菓子のみとなりましたが、一八人参加して下さいました。年のはじめに皆様の近況報告とか行政の思いとかを、出し合いました。

ピアノを弾くことを始めたAさん、民主文学の執筆もしています。昨年医者に治らないと言われ、刺すような痛みを病院を変えて手術で治し何とか今回参加できるようになったと嬉しそうに話されたKさん。戦争を体験された方は、口をそろえて戦争をさせないためどうするかを、訴えました。片桐会長は、伊藤千代子の「わが青春つきるとも」の上映会を数多く企画して、多くの人に観てもらおう。と話されました。宇野美代子さんも元気に参加されました。最後に岐阜支部長の上野さんが、夫のたかしさんの「古事記」の絵を紙芝居にして熱演しました。これにて岐阜支部女性部の一大イベントは、無事終了しました。皆様よいお年を！

イマジン

ジョンレノン

想像してごらん　天国はないと
簡単でしょう
地面の下に　地獄もない
私たちの上に　空があるだけ
想像してごらん　すべての人間を
今日を生きている　フフーフフ

想像してごらん　国境のない世界を
そんなに難しくないさ
命を奪う　武器も無くて
宗教の違いもない
想像してごらん　すべての人間を
平和に生きている　フフーフフ

僕は夢みびとかも知れないけれど
一人ぼっちじゃないよ
いつの日か仲間になって
世界がひとつになる

想像してごらん財産のない世界を
あなたに出来るだろうか
欲張りや飢餓の心配もない
人類の兄弟愛
想像してごらん　すべの人間を
世界を分かち合う　フフーフフ
僕は夢みびとかも知れないけれど
一人ぼっちじゃないよ
いつの日か仲間になって
世界がひとつになる

今、小学校で起こっていること

岐阜支部 秋元 いずみ

「こころ満タン」通称「こころタン」というアプリが岐阜市内のある小学校で導入されそうになっている。「こころタン」には、いくつか質問があり

①六つの選択肢、「だいじょうぶ」「あたまがいたい」「おなかがいたい」「かぜぎみ」「けが」「そのた」というボタンから選ぶ

②「今の気分は？」という質問に、パーセントで今の気分を選ぶ

③子どもが「きいてほしい」ことがある場合は、聞いてほしい相手（教職員）指名して、相談できる

これを朝の会、帰りの会に子どもたちが入力することになるのだという。当然、子どもたちが入力したかどうか未届けが必要になってくるし、内容を確認もしなければならない。

それにしても摩訶不思議なアプリである。

「あたまがいたい」「おなかがいたい」なんて、子どもから直接先生に伝えたらいいのに、なぜわざわざタブレットに入力しなければいけないのか？「今の気分は？」という設問にしても、パーセントが低い子は、もしかしたら先生に呼び出されて、いろいろ聞かれるかもしれない。それがなんらかのサポートになればいいが、それを煩わしく思い、とりあえず百パーセントにしておけばいいか、みたいに思ってしまうことも十分考えられる。

先生たちが、いったい、いつ確認するのか、ということも疑問である。そんな時間が保障されているのだろうか？

先生がタブレットに時間を費やすよりも、子どもたちの顔を見る時間に回した方が、よほど子どもたちの状況をつかめるような気がしてならない。

いったい、どんな発想でこのアプリが開発された、どんな目的で購入されたのだろうか。

保護者はこんなアプリは求めていない。私自身、小学生、中学生を育てている。切実に求めているのは、先生たちが子どもたち一人一人にじっくり関われる体制だ。

我が子が小学三年生のとき、教室に三十六人にいた。小学三年生は算数がどんどん難しくなっていく時期に当たる。

支援の先生が一人補助についていたが、二年生のときはわからない子に丁寧に接することが出来たのに、三年生はわからない子がたくさんいて手が足りないと嘆かれていた。

今の日本では、こういう状況が放置されながら、タブレットには大量の税金が使われている。これは、保護者や子どもたちだけの問題ではなく、この国の在り方の問題でもあるはずだ。

この傾向は、このままでは、ますます拡がっていってしまうように思える。アプリで管理されることに子ども自身が慣れていってしまうとき、果たして彼らはどんな大人になるだろうか。他者にどう接するようになるのか。データや数字で人間というものを理解していくのだと考える大人になっていくのではないだろうか。そんな感覚が育っていくとしたら、こんな恐ろしいことはない。

加害の歴史

岐阜支部　浅井　あさみ

二〇二一年の一二月二三日のしんぶん赤旗に「加害の歴史忘れない」と題して、太平洋戦争開戦八〇年の記事が載りました。

北海道帯広市の七〇代のお二人の婦人が父の中国正規軍との戦闘の記録などを証言されている内容でした。私の父も死なずに帰ったので、後に六人家族の生活がありました。

貧しかったので、家にあるアルバムが唯一の「見る物」だったので、戦争に関わる物ばかりを内容も知らずに眺めていたのです。

父も母も「そういう時代だった」というのが口癖でした。あるとき父がパラシュートで降りた時、誰と闘ったのかと聞いてみました。その時は皆逃げていて、民間の人は誰もいなかった。その家にあったカメラで撮った写真がそれだ、と言いました。日本に石油がなかったから、石油を手に入れるためだった。とも言っていました。村の人が時々、仕事のない冬などに囲炉裏端で戦争の話を聞きにやって来ました。「おまんのお父さんなあ、小学校に兵隊の話しにやってきたんだぞ。偉い人だったんだぞ。その頃は近づけなんだぞ」と言い残して、帰って行かれました。

二〇二一年一一月二八日の「生活と健康を守る新聞」の八面に軍歴証明でわかった、「父は公務員」という記事が載りました。やはり七〇代で、私と同じ年代の方でした。

軍歴証明というのがあるのか、と驚き、戸籍謄本を取り寄せ、県に要請しました。係の方がやさしい方で読みにくい文字をわざわざ打ち直して、原書のコピーとセットで送って下さいました。父がどういうふうに軍隊に志願し、いつ日本を発ち、中国のどこに着き、戦闘をどこでくり返し、ある時野戦病院に入院し、復帰して、またどこで闘い、いつ昇級したかなどが記録されていました。

私は戦後五年経った、昭和二五年生まれで、貧しい開拓生活の中で育ちましたが、ロシア、ウクライナの戦争は父の戦歴と重なり、また、何十年も痛々しい歴史が続くと思うと言葉がありません。

訂正とお詫び

不屈県版第390号(2023年1月15日号)

① 2ページ、上段、左から7行目
　惨事→惨禍

② 3ページ、上段、右から3行目
　挑戦→朝鮮

③ 4ページ、下から11行目
　選手→専守

以上3点、手違いお詫びします

濃尾震災で起きた西別院騒動

岐阜支部　堀田　紀治

（はじめに）

一八九一年（明治二四年）一〇月二八日午前六時三七分に濃尾大地震が起きた。震源地は岐阜県旧根尾村能郷（現本巣市）藤谷で、直径四㎞の断層線が出来た。

農民の窮状は甚大で政府から救済として一五〇万円が支給されたが、窮民に支給されたのは七万円であった。これに反発して西別院騒動が起きた。

（一）県の窮民対策に不満な人々は、震災救済同盟会を結成

一一月一二日岐阜公園中教院前で県民大会を開き、議会並びに政府への請願を決議し、委員に県会議員三名を含む五名を選出し、事務所を「濃飛日報社」内におく事とした。同一六日、伊奈波神社前で屋外演説会を開き、小崎知事（当時）の反省を促した。翌年四月、臨時県会で震災に関する論議が始まった。「同盟会」もこれに呼応し、二三日岐阜公園中教院前の「益友社」で第二回有志大会を開き、請願書調印を協議した。

当日集まった、席田・本巣・方県・山県・厚見・白木町の各郡及び岐阜末廣・白木町あたりの者六、七百名で、各村で調印を纏める事とした。この時委員山田頼次郎は「百万円を要求しよう」と発議し、七、八百名が県庁に結集、知事に面会を求めたが許されず、さらに総代二・三人を選び、県庁内に詰めかけたがこれも許されず、その間に、警部巡査が門外の群民に解散を命じ、一同、総代と共異常なく現場を立ち去った。

（二）西別院騒動始まる（新聞の報道・見聞録から）

●「岐阜日々新聞」報道から「二四日午前十時、西別院に集まった五千の群衆に対し、作日の代表山田頼次郎は「町村一名ずつ総代を選び、一先ず解散すべし」といいて立ち去ったが、群衆はなお立ち去らず、その時警部斉藤某、巡査某「解散せよ」と呼びまわったが、多人数のことにて喧騒ついに警官を押し倒したるより、斉藤警部は抜剣にてこれを防衛したるに、騒擾はいよいよ甚しくて、あるいは石を飛ばし、あるいは瓦礫を投げ、ほとんど制止することも出来ざる内に、佐藤巡査は頭部に二ケ所をシタタカに打たれ重症、その場に倒れたり、斉藤警部も右掌に負傷、他の巡査も負傷、かかる所へ丸山警部長をはじめ警部巡査ら多く馳せ着け、それぞれ鎮撫（ちんぶ）に力つくしたるため、同一一時ごろ群衆はことごとく解散せり」とある。

※清信重は著書「ふるさと岐阜の物語（明治編）」で、文意は県庁側に同情的で、現場の様子を十分に記しているとは思えない。と述べている。

●「濃飛日報」記者・小野小野三の回顧録

当時、「濃飛日報」の記者で小野小野三の回顧録によれば「朝来、岐阜西別院へ集まる者は五千人に達す。

前日、小崎知事に逃げられ、その善後策を協議。一つは調印漏れの人々に請願書に調印なさしめんがためなり。しかるに警官の警戒すこぶる厳重にして、市の入り口の要所、要所に張り込み、一々誰何(すいか)し容易に通行を許されず。しかれども西別院には、すでに以外に多数の人集まりをもって、各市町村より一、二の代表を選び、門前の茶屋において今後の方針を協議中、警察官は西別院の群衆に対して即時解散を命ず。一災民は、「総代の帰るまで暫時猶予をこう」。衆これに和して喧嚣(けんごう)を極む。警官抜剣してこれを制止。不平不満、今や退散せんとする群衆は警史の手にひらめく煌煌たる刀影を見て、一時に憤怒呼号せり。混乱又混乱、民衆は傷つけられ、警察官も又剣を奪われ帽子を失い、瓦礫宙に飛ぶ。この時、丸山警部長は騎馬にて現場に駆けつけ、数十名の警官これに随い剣を抜き放つ、剣光は日に映え、凄然たり、群衆恐怖してなす所知らず、西に逃げ、東に走り、蜘蛛の子の散る如し。」とある。

●当時の市長熊谷孫六郎を父とする熊谷守一(日本近代洋画家の重鎮)のエッセイ「へたも画のうち」の中に当時一一歳だった守一少年の目に写った状況は「私の家の隣が役所だから、騒ぎは二階の窓からよく見えます。のら着のままで、ムシロ旗が何本もたつているムシロ旗は随分重いものらしく、持っている男は両足に力を入れてふんばっていました。他の人は、手に手にカマやクワをにぎって、役所の前で口々にわめいていました。やがておまわりが数人かけてきましたが、まるで歯が立たない。百姓達に捕まって、サーベルを『く』の字にへし折られドブに捨てられたり、なぐられたりしていました。百姓たちは間もなく、ちかくの『西御坊』という大きな寺に陣を張りました。寺の庫裏の高い屋ねにのぼって、屋根がわらを足でふみ割り、それを捕り方に投げつける。庫裏の屋根は広いから、武器はいくらでもできる。捕り方が大ぜいできて寺を取り巻くが、かわらが雨あられと投げつけられ、陣はなかなかおちないようでした。」と書いている。

※清重信は、この記録は、終末まで記していないが、一一歳の証言に間違いあるまい。と述べている。

(三)その後について

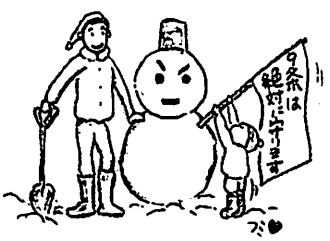
●「森儀一、県政五〇年史」によれば「県庁はにわかに鳶(とび)、人足を集め、門前に屯(たむろ)せしめ、夜は篝火をたきドラをたたき警戒、又県下各署より非常呼集の警官右往左往、剣声かつかつとして、その状あたかも土匪の来襲に備うる感あり。ために市民戦々競々たるありさま。」であったとある。

● 西別院現場での補縛者四名。朝にかけて二〇名を超える多数だった。また岐阜日々新聞に対立する泉町、濃飛日報社も家宅捜査を受け、二六日社員全員が逮捕された。

(最後に)

この事件が県当局の過剰防衛による偶発的なものか、あるいは民衆の側に積極的な意図があったのかは、研究がいるようです。

※清重信は、この事件は岐阜県における自由民権運動の最後の火花に見える。と書いている。



同盟短歌　2023年1月の歌

「やったあ」と曾孫等の声思いつつ大鍋いっぱい枝豆茹でる　堀部　富子

ヨガの日はヨガ用服に急ぎ着て足ひきずるも友とでかける　水野　信枝

自転車の少年近づきて潔く「国葬反対」のシール投票す　和田　玲子

浮上する核共有ー／もたらすもの言わずと知れた／核兵器の罪過は　伊東　幸惠

じわじわと花の値段も上がりきてただ一輪の菊を買いたり　浅井　あさみ

生き切ったと亡夫を称える植田さん支えし姿式典にあり　一柳　好江

姉妹にて母の亡き日を偲び居り　会食するに五家族揃い　木村　峰子

ソーメンを今日は忘れず仏前に夫の好物小ネギも添えて　古田　立子

子や孫に平和てわたす願いこめ九条守れ列に声挙げる　竹中　トキ子

※歌うとは生きるたたかいです。今年も生活の場から短歌を発信します。